

空高くトビが鳴き、畑の片隅の梅の木がちょうど満開を迎えて芳しい香りをふりまいています。

「フクシマ オーガニックコットンプロジェクト」二年目の農作業が始まりました。写真。東日本大震災後、いわき市内に広がる耕作放棄地を市民の力で食い止めようと始まった有機農法による綿花栽培の試みです。昨年一年間は全くの手探り状態でしたが、経験を積んだ今年は多くの頼もしい仲間を得て、自信を持って進められるようになってきました。

ボランティアの皆さんが押す耕運機はクボタか



NPO法人
ザ・ピープル 理事長
吉田恵美子さん

東北復興日記

32

綿花栽培2年目始動

らいわき市社会福祉協議会を介して寄贈されたもので。また、味の素冷凍食品株式会社による「東北に元気を！明日を耕すプロジェクト」から

波と放射能の二重苦を味わった場所ですが、土壌と空間の線量チェックで安全を確認しました。広野町に作物が育つ風景を再現したいとの願いを持つ鈴木郁さんと一緒に取り組みます。

先日、プリチストンの皆さんに入っていたたい栽培地は、いわき市の北隣、広野町に新たに設けられたところです。津

震災体験の風化、放射能汚染による風評被害、地域コミュニティの断絶といった課題を抱えながら、私たちは自分自身で立ち上がっていかねればなりません。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

